

「認知症」を知るための20週間

家族が認知症になると「本さまざまな人で、パチンコ、居酒屋、カラオケ、花見などへ出かけ、年一回は旅行もしている。」

「外出や旅行なんてとんでもない」となりがちだ。それに真っ向から反論するのは、兵庫県西宮市「しじい場さくらちゃん」の丸尾多重子さん。



旅行に行つてミラクル起ころう

旅行先は最初は近場だったが、ラクルがあった。その経験者のひとりがNさん。50代で認知症を発症した夫の在宅介護を始めて25年になる。

(Nさん)

旅行どころではない状況だったが、ほぼ毎年旅行に参加している夫は、1年前、前回の旅行から戻ってきたその日から「また台湾行くんや」と楽しみにしていた。Nさんも、旅行をやめることは少しも考えなかった。

荷物には夫のために、食事を、

すりつぶすすりぎ、バナナ、軟らかいパンなどを用意した。

ところが、行きの飛行機で最初のミラクルが起こった。

機内食で出てきたレタスを、パリパリパリッと食べたんです。生野菜なんて長く食べていませんでしたから、『のみ込

み、大丈夫?』と心配になったりもした。(金曜掲載)

夫は寝たきりで、旅行の2カ月前にどこかで疥癬ダニに感染。感染の拡大を防ぐため、2カ月前一歩も外出できなかった。

それにより一気に体力が衰え、ミルですりつぶした食品を少量しか受け付けなくなっていた。

「このままずっと流動食になるんだらうと、覚悟しました」

「認知症だからって、家に閉じ込めておいて、どんなにいいことがある? 健康な人でも家の中にずっといれば息が詰まる。積極的に外へ出て、おいしいものを食べ、刺激を受ける。これによって、数々の「ミラクル」が起こります」

そうはいっても、介護家族だけでは外出が困難。そこで丸尾さんは「お出かけタイ」と名付

けた。認知症の人やその家族、医療スタッフ、介護に関心があるさま

旅行先は最初は近場だったが、北海道へ距離を延ばし、ここ数年は台湾へ旅している。「要介護5の人も数人交えての団体旅行。それはもう、賑やかですよ」(丸尾さん)

昨年秋の台湾旅行でも、数々のミラクルがあった。その経験者のひとりがNさん。50代で認知症を発症した夫の在宅介護を始めて25年になる。

「主人はどうせ食べられないから。残したものを食べよう」と取り皿に料理を取っても、主人がきれいに食べてしまふ、私はほとんど食べられませんでした。夫のためのバナナを私が食べていたから」(Nさん)

旅行から帰った後も、「食べる力」は継続。疥癬ダニに感染する前の食欲を取り戻した。「みんなが笑顔の旅行先では、楽しい空気が伝わり食欲だって湧く。Nさんのご主人の件は、決してレアケースではありません」(丸尾さん)

「旅行から帰った後も、「食べる力」は継続。疥癬ダニに感染する前の食欲を取り戻した。「みんなが笑顔の旅行先では、楽しい空気が伝わり食欲だって湧く。Nさんのご主人の件は、決してレアケースではありません」(丸尾さん)



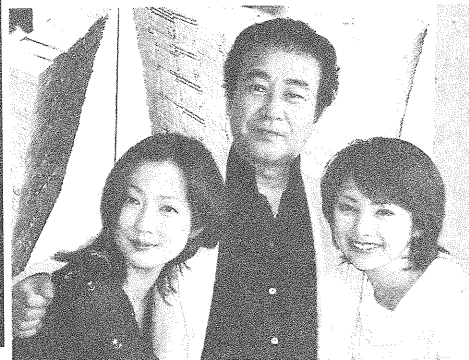
連載 ⑧

⑩ 渡瀬恒彦さんのケース

「当初よりステージ4、余命1年の告知を受けておりました」
胆のうがんによる多臓器不全で亡くなった俳優・渡瀬恒彦さん(享年72)について、兄で俳優の渡哲也さんはこう語っています。「一連の報道によると、「当初」は診断された15年秋。そう考えると、診断から一年半を経過しての最期でしょうか。」
その報道に触れ、気に

なったのが、余命告知です。一般に、余命は研究結果をベースに告知されます。しかし、その研究結果自体、バラつきが少なくないのです。

たとえば、食道がんで抗がん剤と放射線を同時に使う治療を受けた後に再発した37人を追跡した研究があります。その結果だと、一番短い人は1カ月で、最も長い人は約



診断から一年半での訃報

余命告知は短めに

3年でした。このような場合は19番目に長生きした研究結果は、最長の人か人です。その中央値は9カ月。そこから真ん中の人の余命を採用します。それを中央値といつて、この場合食道がんと同じような状

態で再発した間37万人を超え、死因の月、6カ月、1年が一般方だと、余命トップ。心筋梗塞や交通的ですが、仮に6カ月だとしても、事故などのように突然の死でも、告知は3カ月に結果の真に大と迫りくる死、という点なるかもしれません。そのきバラつきで、ほかの病気と大きく、患者が「余命」を分ることで、死は、必ず受け入れる準備が必要なのです。そこばれることはあれ、訴訟「中央値」で、余命告知が広く普及のリスクは確実に減るでしょう。

一方、日本でも海外の真は若いころ、40代の傾向で、余命もその対象進行した直腸がん患者に者か、研究対の1つ。告知した余命期室で首吊り自殺されたことがあります。今から患者となった患者を全うせずに患者が亡とがあります。今から患者と同一病状になると、医師は裁判に訴えられる恐れがあります。ただ訴えられると、どうなるかという点、余命は比較的短く告知されること告知される余命は3カ属病院放射線科准教授